「二子山のグレーディングにつきまして」

二子山はスポートクライミングのエリアとして存在することをふまえ、この度の二子山西岳再生（開拓・整備）プロジェクトでは、奥多摩の御前岩と同様に、フレンチグレードを採用しています。

その理由は以下のとおりです。第一線で世界各国の岩場で登ってきた平山ユージや安間佐千を中心として当協会理事会は、これまでの二子山のグレードと、海外のスポートクライミングが行われている石灰岩のエリアのグレード（グローバルスタンダード）と比べて、大きな違い（同じグレードでも前者の方が難しい）があると感じています。そこで、西岳再生プロジェクトにおいては、石灰岩のスポートクライミングにおけるグローバルスタンダードに合わせて、新規開拓のルートはフレンチグレードでグレーディングし、リボルトしたルートもフレンチグレードでリグレーディングしました。

今回の西岳再生プロジェクトにおいて表記されたフレンチグレードを、グレード換算表でデシマルグレードと見比べても面白いと思いますし、換算表を見ずにフレンチグレードをそのまま丸ごと体感していただくのも良いと思います。

前述のように、西岳再生プロジェクトにおいて、グローバルスタンダードであるフレンチグレードを採用してグレーディングしていますが、換算表と見比べた時に、これまでの弓状バットレスを中心とした二子山で採用されているデシマルグレードとの違いに驚かれる方も多いかもしれません。しかし、それが石灰岩のスポートクライミングエリアで、世界的に語られるグローバルスタンダードであり、皆さんが海外の石灰岩のスポートクライミングエリアで登る際に感じるグレードに近いと思います。また、グローバルスタンダードの採用は、海外のクライマーが日本で登る際にも役立つでしょうし、世界の雑誌やウェブで語られるグレードと日本のスポートクライミングのグレードとが整合していれば、未来の若者にとっても、日本のクライミング界にとっても大変良いことだと考えます。

当協会は、日本はもとより海外のクライマーのためにも、グローバルなスポートクライミングのグレーディングに合わせるべくフレンチグレードを採用することが、ひとつのチャレンジだと考えており、このチャレンジがクライマーに受け入れられるか否かを含めて、今後も試行錯誤を積み重ねながら進めていければと考えています。

2021 年 3 月 20 日

一般社団法人小鹿野クライミング協会　理事会